

原稿：「〇〇管理一覧表」の効用？

東京でのサラリーマン生活に区切りをつけ、地元九州でISOコンサルを始めて14年目。当初はIOS14001（当時は未だDIS段階）中心に試行錯誤を繰り返しながらのコンサルで、本屋にもIOS14001関連の本などほとんどない頃のことでした。

それから2年後、1998年頃に考案し活用し始めたのが、今回紹介する「〇〇管理一覧表」の原型です。コンサル先の責任者や各部門の人に、何とか上手くIOS14001の運用要素(エレメント)をまとめて伝えようとの思いから「環境管理一覧表」の策定を提案し始めました。縦軸に「部門か業務(プロセス)」、横軸に「環境側面、法規制等、目的目標・・・監視測定」を並べて、構築の中で確定し次第、各要素を埋めて行ってもらいます。

この表の効用は、1)構築中には構築進捗度の確認が出来る(つまり、表の内容が全部埋まれば、システムの要素は確立されたことになる)ことです。2)また、運用中の効用は、“マニュアル・規程・手順書”や“著しい環境側面登録表”“法規制等登録表”“環境目的・目標一覧表”“教育訓練計画表”“運用項目一覧表”“監視測定一覧表”など要素毎の文書作りシステムで、システムを運用する人達(特に、事務局以外の人)のにとって思考が分断され・難しくなったIOSの仕組みを、全体像が見え・繋がりがあがり・分かり易いものへと導くものとなります(多数の表が、1枚の「管理一覧表」になるシンプル化のオマケ付きで)。

上段に掲載(一部分)する「品質管理一覧表」は、IOS9001で2000年(改訂)の頃、前述14001と同様な考えで考案し活用し始めました。この表は、縦軸に、顧客との関連において成果を生み出す本来業務である“7.製品実現”の7.2~7.5を取り、横軸は“製品実現”を支える主要な要素、品質目標(目指すもの)、力量(一人前のレベル)、インフラ(設備機器)・・・、監視・測定などであり、組織の性質によって要素は増減します。

単純な二次元(縦軸・横軸)にすることが大事で、縦軸・横軸の外枠は規格要求事項の単語をそのまま使用しますが、その内側は、すべて各組織の言葉(キーワード)で内容を埋めていきます。

この表の効用は、IOS14001と同様ですが、更にこの表を眺めているとシステム全体の運用バランス(部門間の偏り・弱さなど)も見えてきて、8.4データ分析、8.5見直し・改善にも役立ちます。

当方へのご意見・質問があれば、メール(mekata@olive.plala.or.jp)でお寄せください。